

## 環境目標と行動の達成度評価

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



環境目標は、本学の環境方針に則して計画を立てています。

ここでは目標達成のために行った2021年度の環境配慮活動を3段階で評価するとともにSDGS への取り組み状況を示しました。

### 環境保全技術の研究機関として

環境目標 (研究活動)	2021年度の主な取組	関連する 記事	次年度の取組・ 将来の見通し	評価	SDGsへの 取組
持続型社会の創生に資する科学技術研究をより一層促進する。	再生可能エネルギーの取り組みにまつわるトラブル等の問題解決のための、「地域共生型再生可能エネルギー計画学の構築を目指す研究」、およびプラスチックゴミによる環境汚染問題を解決するための、「微生物でつくる環境低負荷型プラスチックの研究」等を行った。 また、化石燃料依存から再生可能エネルギーへの転換を目的として、ゼロカーボンエネルギー研究所を設置した。	1-4 (5頁) 2-1 (6-9頁)	産学官、社会、市民が連携したオープンイノベーションで地球環境維持の研究活動を含め、引き続き、環境に関する問題の解決と社会への還元を目指した研究を推進する。	○	4, 6, 7, 9, 12, 13, 14, 15

環境目標 (社会貢献)	2021年度の主な取組	関連する 記事	次年度の取組・ 将来の見通し	評価	SDGsへの 取組
研究活動、人材育成を通じ、我が国のみならず世界に貢献する。	ステークホルダーたる地元住民の方々への火山防災についての学習機会の提供や、学生による学内清掃活動を通じゴミを出さない自覚を学生に促す活動を行い、社会貢献に資する取り組みを行った。	4-1 (12-13頁)	蓄積された経験と知識を社会に提供するとともに学習機会を設けて積極的に情報提供を行い、社会への環境に関する意識向上活動を推進する。	○	4, 11, 12, 15

### 人材育成の教育機関として

環境目標 (人材育成)	2021年度の主な取組	関連する 記事	次年度の取組・ 将来の見通し	評価	SDGsへの 取組
持続型社会の創生に向けて、環境に対する意識が高く豊富な知識を有し、各界のリーダーとなりうる人材を育成する。	大学においては、高い倫理観を育む環境関連のカリキュラムを充実し、各部署の専門分野における教育を行った。 環境関連科目は、学士課程23科目(延べ1,741人受講)・大学院課程45科目(延べ1,379人受講)開講した。 また高校の各学年においては、環境を題材とした学習を行うとともに、環境省主催の放射線の環境影響に関する情報発信プロジェクトである「ぐるぐるプロジェクト ラジエーションカレッジセミナー」を行った。	3-1 3-2 (10-11頁)	持続可能な社会の構築に向け、実践的な環境教育をとおして、常に環境・安全に配慮し、積極的に行動することができる人材の育成を行うため、引き続き環境関連教育を推進する。	○	4, 6, 7, 9, 12, 13, 14, 15, 17

環境目標 (環境意識の高揚)	2021年度の主な取組	関連する 記事	次年度の取組・ 将来の見通し	評価	SDGsへの 取組
すべての役職員および学生に環境教育・啓発活動を実施し、大学構成員全員の環境方針等に対する理解と環境に関する意識の高揚を図る。	学内における安全・環境保全の基本的な考え方および意識向上を目的とした全学的講習会をオンラインで実施した。	5-5 (17-18頁)	実験系研究室に所属する学生および教職員が、環境負荷低減を意識し、安全で環境に優しい実験に取り組むよう引き続き講習会等学内の教育を推進する。	○	6, 12, 14

環境負荷の低減に取り組む事業所として

環境目標 (環境負荷の低減)	2021年度の主な取組	関連する 記事	次年度の取組・ 将来の見通し	評価	SDGsへの 取組
自らが及ぼす環境への負荷を最小限に留めるため、環境目標とこれに基づいた計画を策定し、実行する。	エネルギー使用について、節電・省エネマニュアルおよびクールビズ・ウォームビズ実施ポスターを作成し、学内周知することで使用量削減に努めた。昨年度に比べ対面授業が増え、換気しながらの冷暖房運転を行ったこと等から電力使用量は12.1%増となった。なお、ガス使用量は、遠隔授業を引き続き行っていること等により9.8%減となった。	5-3 (15頁) 6-1 (19頁) 6-2 (20頁)	省エネルギー推進行動計画(2018~2021)の最終評価を行い、次期行動計画を策定し、施設・設備の更新等を行うとともに、引き続き使用量を分析し、各キャンパスにおいて省エネ対策を推進する。	△	7, 13
	化学物質管理について、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の緩和による実験再開等により使用量は43.8%増、PRTR物質のうちクロロホルム、ジクロロメタン、ノルマルヘキサン年間使用量は前年度比57.2%増、移動量は67.2%増、排出量(大気放出量)は13.2%増となった。	6-1 (19頁) 6-4 (23-24頁)	「化学物質管理支援システム(IASO R6)」による化学物質の在庫管理および下水道等排水分析により化学物質の排出抑制を推進する。	△	6, 11, 12
	実験廃液について、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の緩和による実験再開と、実験内容の変遷に伴い、発生量が増加した。廃試薬・廃サンプルについては、キャンパス再開のための環境安全管理棟廃止に伴う回収頻度の削減により発生量が一時的に減少した。	6-1 (19頁) 6-5 (25頁)	引き続き使用量を分析し、実験系産業廃棄物量の低減および資源の有効利用を推進する。	△	12
	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の緩和による対面授業が増えたことにより紙使用量3.5%増、上水道使用量9.5%増、下水道使用量10.3%増となった。	6-1 (19頁) 6-6 (26頁)	引き続き学内の3R活動を推進し、各使用量を分析のうえ、必要な対策および検討を推進する。	△	6, 12, 15

環境目標 (EMS)	2021年度の主な取組	関連する 記事	次年度の取組・ 将来の見通し	評価	SDGsへの 取組
世界をリードする理工系総合大学にふさわしい、より先進的な環境マネジメントシステムを構築し、効果的運用を行うとともに、継続的改善に努める。	本学の研究・教育活動において、環境に有益な影響を与える事項、負荷を与える事項を洗い出し、環境保全の取り組みに努めた。	1-3 (3-4頁) 5-1 (14頁)	引き続き本学の種々の活動に関する環境側面からのマネジメント活動を推進する。	○	12, 13, 17
	省エネ対策として、LED照明や高効率空調機へ交換・更新を積極的に行うとともにさらに効果を高めるため、空調集中管理システム・電力集中検針システムによるエネルギーの見える化により環境配慮型低炭素キャンパス実現に向けて活動した。	5-3 (15頁) 6-1 (19頁) 6-2 (20頁) 6-3 (21-22頁)	引き続き環境に配慮した職場環境の改善を推進する。	○	7, 13
	ゴミ分別・3R活動により環境負荷の低減に努めるとともに、ゴミの分別・排出ルールを徹底するためe-ラーニングを通じて周知した。	5-4 (16頁) 6-1 (19頁)	引き続き廃棄物減量化および再資源化等を推進し、環境負荷低減に取り組む。	○	4, 12
	教職員および学生に対して化学物質管理に関するオンライン講習会を実施した。また「化学物質管理支援システム(IASO R6)」により特に化学物質の環境への排出が多い研究室を特定し、環境負荷低減策の注意喚起を行った。実験系廃棄物回収時には、申請内容との整合性と廃棄物の内容確認を行い、研究室へ適切な指導と啓発活動を行った。	5-5 (17-18頁) 6-1 (19頁) 6-4 (23-24頁)	引き続き大学全体の化学物質の数量および流れを把握し安全対策を講じ、環境負荷低減に取り組む。	○	4, 6, 11 12, 14

※評価基準は以下のとおりです(評価右欄に該当するSDGsの17の目標番号を記載しました)

○ 目標を達成した    △ 一部目標を達成できなかったものの十分な取り組みを行った    × 環境目標に対する取り組みを行っていない